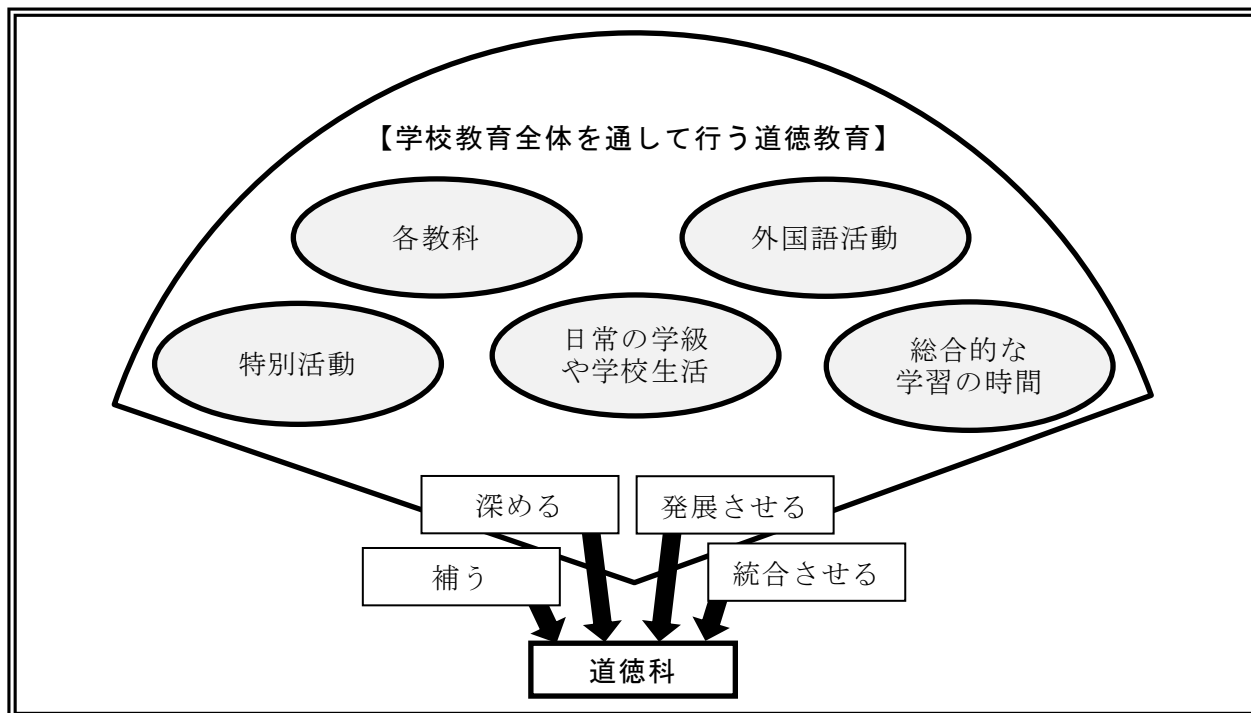


Ⅲ 道徳科の授業を構成する手立て

1 教育課程編成の一般方針

道徳教育は、学校や児童生徒の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。

道徳科は、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。



【小学校の時期】

6年間の発達の段階を考慮するとともに、幼児期の発達の段階を踏まえ、中学校の発達の段階への成長の見通しをもつ



【中学校の時期】

3年間の発達の段階を考慮するとともに、特に中学校に入学して間もない時期には小学校高学年段階における指導との接続を意識しつつ、また学年が上がるにつれて高等学校等における人間としての在り方や生き方に関する教育への見通しをもつ

道徳科においては、発達の段階を前提としつつも、指導内容や指導方法を考える上では、個々人としての特性等から捉えられる個人差に配慮することも重要となる。児童生徒の実態を把握し、指導内容、指導方法を決定してこそ、適切に指導を行うことが可能となる。

2 道徳科の授業に取り組む基本的な構え

道徳科の指導は、学校の道徳教育の目標を達成するために行うものであることから、道徳教育推進教師を中心として、道徳教育の全体計画や道徳科の年間指導計画に基づく道徳科の指導を行う必要がある。言うなれば、年間指導計画に基づいて様々な内容項目を取り扱うことで、計画的に児童生徒の心を育てていくことが道徳科の役割である。

また、道徳科の目標を達成するためには、児童生徒が既に分かっていることを再確認するのではなく、授業で取り扱う内容項目について「なぜそのことが大切なのか」「分かっているのになぜ行うことができないのか」といったことについて考えたり議論したりすることが重要となる。

3 授業構想・指導案作成の流れ（例）

(1) 主題名＝1時間の授業が概観できるような言葉で表される

道徳科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものである。原則として年間指導計画における主題名を記述し、指導する視点を表すアルファベットと内容項目を主題名の後に明記する。

(2) 主題設定の理由

児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けるようにする。

抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述する。

① 価値観＝ねらいや指導内容についての教師の捉え方

学年段階ごとに示されている内容項目は、その全てが道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるものである。それぞれの内容項目の発展性や特質及び児童生徒の発達の段階などを全体にわたって理解し、児童生徒が主体的に道徳性を養うことができるようにしていく必要がある。

② 児童観・生徒観＝価値観に関連する児童生徒の学習状況や実態と教師の児童生徒観

道徳科の授業を行う際に、学級担任として児童生徒一人一人のよさを発見し、その道徳性の発達段階について正確に把握しておくことが肝要である。実態を把握する方法としては、生活場面での観察、道徳授業での観察、日記や作文等の生活記録の読み取り、調査、カウンセリング、検査などが考えられる。

③ 教材観＝使用する教材の特質や取り上げた意図及び児童生徒の実態と関わらせた教材を生かす具体的な活用方法

教科用図書や副読本等の教材について、授業者が児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討する。道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性を鑑みれば、多様な教材を併せて活用することが重要となる。

教材について、ねらいとの関わりで道徳的価値がどのように含まれているかについて検討する際には、指導者自身が、教材の構造や表現の意図、そこに含まれる道徳的価値や人間性を深く理解することが大切である。

(3) 本時のねらい

年間指導計画に踏まえて、ねらいを記述する。本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記し、複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

(4) 関連

年間指導計画を基に、同一学年で複数時間行う内容項目について、その教材名と主題名を確認する。複数時間行わない内容項目については、学習指導案作成上での記述は省略する。

(5) 学習指導過程

道徳科の授業＝道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる＝道徳性を養う時間

(小) ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習指導過程となるようにする。

(中) ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習指導過程となるようにする。

① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 〈ねらい〉

教材の登場人物の心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。

〈指導方法の効果〉

教材の登場人物の心情と自分との関わりについて、多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法である。登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

〈留意事項〉

教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、登場人物の心情理解のみの指導になりかねない。

導入	道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・価値への方向付け ・教材への方向付け
展開	登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、自分との関わりで考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・簡潔に「あらすじ」を確認する。 ・教材をもとに、主人公等の思いや考え方に共感させる。 ・級友の価値観と照らし合わせさせることで、自分の感じ方や考え方の位置を知らせ、自分の価値観を深化させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） 〔共感的活用〕 主人公等の考え方、感じ方に共感させることによって、自分の現在の価値観に気付かせ自覚を促す方法。 <ul style="list-style-type: none"> ・そのとき主人公はどのような気持ちだっただろう。 ・そのとき主人公は何を考えていただろう。 ・そのとき主人公は何を悩んでいただろう。 〔感動的活用〕 教材が深い感銘を与える場合、児童生徒の感動を特に重視しながら、ねらいとする価値把握を図る方法。 <ul style="list-style-type: none"> ・心に残ったところはどこだろう。 ・なぜそこが心に残ったのだろう。 ・なぜみんなを感動させるのだろう。 〔範例的活用〕 主人公等の行った道徳的行為を、児童生徒に一つの手本や範例として受け取らせる方法。 <ul style="list-style-type: none"> ・手本にしたいところはどのようなところか。 ・見習いたいところはどのようなところか。 ・どうしてこんな立派な行為ができたのだろう。 〔批判的活用〕 主人公等の行為や考え方を児童生徒に批判させ、互いの意見を交わすことにより道徳的な考え方、感じ方を深めさせる方法。 <ul style="list-style-type: none"> ・このときの主人公の考えをどう思うか。 ・この主人公の行為をどう思うか。 ・この行為をした主人公をどう思うか。 </div> 振り返り（価値の内面的自覚を図る） 本時の授業を踏まえ、各自で道徳的価値に関わる自分の在り方や生き方を振り返り、交流する。
終末	まとめ 教師による説話などでまとめる。

② 問題解決的な学習

〈ねらい〉

問題解決的な学習を通して、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

〈指導方法の効果〉

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問によって、価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

- ・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効
- ・他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性
- ・問題解決の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決プロセスに価値がある
- ・考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値がある

〈留意事項〉

明確なテーマ設定のもとで、

- ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- ・「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。

といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。

【パターン１】

導入	問題の発見 教材や日常生活から道徳的な問題を見付ける。
展開	問題の探究 発見した問題について、グループなどで「なぜ問題となっているのか」「問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのか」などについて、多面的・多角的に考え、議論を深める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ思いやりは大切なのだろうか。 ・どうすれば思いやりを表現できるだろうか。 ・同じ場面に出会ったら、自分ならどのように行動するか。 ・なぜそのように行動するのか。 ・よりよい解決方法はないだろうか。 </div> 問題の解決 問題の探求を踏まえ、問題に対する自分なりの考えや解決方法を導き出す。
終末	まとめ 本時を振り返り、学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。

【パターン２】

導入	道徳的価値の想起 個人的な経験や具体的な事例から道徳的価値を考える。
展開	道徳的な問題の状況の分析 教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 </div> 複数の解決策の構想 問題場面に対し、様々な解決策を構想する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） <ul style="list-style-type: none"> ・主人公はどうしたらよいのだろう。 ・自分ならどうしただろう。 </div> シミュレーション 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。

終末	<p>まとめ</p> <p>今後の生活でどのように生かせるかを問い、価値の内面化から道徳的实践へと促す。</p>
----	--

③ 体験的な学習

〈ねらい〉

役割演技などの体験的な学習を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

〈指導方法の効果〉

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解し、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための実践的な資質・能力を養うことができる。

- ・心情と行為をすり合わせるにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことに有効
- ・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで、内面も強化していくことが可能
- ・実際の行為の難しさやその対処法を考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値

〈留意事項〉

明確なテーマのもとでの検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒指導・生活指導になりかねない。

- ・心情と行為との葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。
- ・問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。

【パターン１（役割演技）】

導入	<p>教材の提示</p> <p>教材の概要の説明や登場人物の確認などを行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>提示の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車の中で席を譲るか譲らないかという葛藤場面 </div>
展開	<p>道徳的な問題場面の提示</p> <p>ペア・インタビューなどを通して、登場人物の心情を理解し、何が問題になっているのか、状況を把握する。</p> <p>再現の役割演技</p> <p>グループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤を理解するとともに、取り得る行動を多面的・多角的に考える。</p> <p>新たな場面の提示</p> <p>同様の新たな問題場면을提示し、グループで何が問題になっているかを考え、取り得る行動を多面的・多角的に考える。</p> <p>解決の役割演技</p> <p>新たに提示された場面について考えた取り得る行動を、役割演技を通して再現し、解決を図る。</p>
終末	<p>まとめ</p> <p>感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、自分の取り得る行動について振り返る。</p>

【パターン２（道徳的行為）】

導入	道徳的価値に関する内容の提示 分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、理由を考える。
展開	教材の提示 道徳的価値の含まれた映像教材を視聴し、登場人物の行動に想いを巡らせ、行動の意味やその際の心情を考える。 自分の行動を振り返る 教材を踏まえ、なかなか実践できない道徳的行為について、実践するには勇気があることなど、気持ちと行動をつなげることの難しさや大切さを考える。 体験的な学習 これまでの授業を踏まえ、実際に問題場面を設定し、道徳的な行為を体験する。体験を通して実生活における道徳的な問題の解決に見通しをもたせる。
終末	まとめ 体験をした感想を交流し、今後の生活にどのようにつなげていくかを考えるなどする。

【パターン３（問題解決的な学習＋体験的な学習）】

導入	道徳的価値の考察 道徳的価値の本当の意味や意義を考える。
展開	道徳的な問題の状況の分析 教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 教師の主な発問（例） <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 </div> 複数の解決策の構想 問題場面に対し、様々な解決策を構想する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 問題解決への示唆（例） <ul style="list-style-type: none"> ・自分が同じようにされてもよいか。 ・いつ、どこで、誰にでも同じようにするのか。 ・それで皆が幸せになれるか。 </div> 体験的な学習 自分ならどのように行動するかということを、役割演技などを通して実際に経験する。
終末	まとめ 導入における根本的な問いに対し、自分なりの結論を出す。

④ その他、道徳科に生かす指導方法の工夫

ア 話合いの工夫

- ・児童生徒相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳科においても重要な役割を果たす。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話合いが行われるよう工夫する。
- ・話すことと聞くことが並行して行われ、友達の考え方についての理解を深めたり自分の考えを明確にしたりすることができる。

イ 書く活動の工夫

- ・児童生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもつ。
- ・自分自身とじっくり向き合ったり自分なりにじっくり考えたりすることができる。
- ・１冊のノートなどを活用することによって、学習を継続的に深めていくことができ、

児童生徒の成長の記録として活用したり、評価に生かしたりすることもできる。

ウ 動作化、役割演技等の表現活動の工夫

- ・児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫
- ・動きや台詞、言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫
- ・音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫

など

エ 板書を生かす工夫

- ・教師の伝えたい内容を示したり、その順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりするなど、板書は多様な機能をもっている。
- ・思考の流れや順序を示すような順接的な板書、違いや多様さを対比的、構造的に示す板書、中心部分を浮き立たせる板書などの工夫が大切である。

オ 説話の工夫

- ・説話とは、児童生徒がねらいの根底にある道徳的価値を一層主体的に考えられるようにするものである。
- ・教師の体験談や願い、様々な事象についての所感、日常生活における問題や身近な話題、関心や視野を広げる時事問題、ことわざや格言、心に残る標語、地域の自然や伝統文化に関することなどが考えられる。